

# 《御製清文鑑》と《蒙語老乞大》における若干単語の比較

——《御製滿珠蒙古漢字三合切音清文鑑》をもとに  
(要約)

呼日勒巴特尔 (内モンゴル大学、教授)

ここで使っている《御製清文鑑》は統合的な言い方で、18世紀初期から18世紀末或いは19世紀初期にいたるまでの期間に発行された〈御製〉という限定語をもつ幾つかの辞書を含むことになるが、本文で主に扱うのは、1870年の〈序〉を持つ《御製滿珠蒙古漢字三合切音清文鑑》である。

ご周知の通り、《蒙語老乞大》は18世紀の朝鮮に編集されたモンゴル語を学ぶための教科書であり、最初は1741年に発行され、その後1766年と1790年、2回に渡って訂正されたといわれている。本文では主に奎章閣韓国学研究院より発行された《蒙語老乞大》を扱う。

今までの研究では《御製清文鑑》と《蒙語老乞大》は時間的な一致を除けば、殆んど関係のないように思われてきた。しかし、筆者の最近の考察したところによれば、両者はいろいろな面で密接な関係を持っており、それも研究が進むことによって、だんだん明らかになってきている。両者の接点はいったいどこにあったのか？それをどういう研究によって明らかにすることが出来るか？これは筆者の現段階でやっている研究であり、これからもこの方向に向かって研究を進めることになるだろう。

《御製清文鑑》と《蒙語老乞大》の比較研究を主に音韻、語彙、正書法、借用語（殆んど中国語）などの各面で進めてきているが、本文では両者に通用する幾つかの単語を比較することにした。《蒙語老乞大》において使われた幾つかの特殊な単語が《御製清文鑑》に収録されており、それが意味と使用方法などの面でもかなり一致している。18世紀のほかの文献に殆んど見られない単語が《御製清文鑑》と《蒙語老乞大》に共通して現れるのは何を意味するものなのか？

18世紀の朝鮮半島で《蒙語老乞大》というモンゴル語の教科書を編集及び訂正する際に、《御製清文鑑》の何れかを参照した可能性が非常に高い。しかし、こういう結論に至るまでは音韻、語彙、正書法など様々な面での精密な研究が必要とされる。ただ、単語の面でいえば、《蒙語老乞大》に出てくる単語及び術語の多くは《御製清文鑑》より採用された可能性が大きい。特に、特殊な単語、新しい言葉の採用はこの様な方法で決定していたのであろうか？